

宿縁

八月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

浄土真宗
本願寺派

中原寺

TEL 〇四七―三七二―〇二九二
FAX 〇四七―三七二―〇二六一

人間にとって 本当に大切なもの



生涯現役医師として一生を貫いた日野原重明さんが百五歳で亡くなりました。穏やかなその言動と堅い意思は多くの学びを私たちに遺していくれました。しかしその一つ一つは人生での人との出会いや失敗、経験によって培われたものでした。

『私がいまもって忘れえないのは、私が医師として初めて受けもった十六歳の少女の死です。仏教への信心の深い少女でした。自分がもう長くないと覚った彼女は、私に

母親への別れの伝言を託そうとしました。けれども私は、そのときにいたっては何の意味もない注射を打ちながら、「死にはしない。しっかりしなさい」と繰り返すばかりだったのです。

なぜ、

「お母さんには、あなたのことばを伝えますから安心して成仏なさい」

と、勇気をもって言えなかったのか。脈をとるその手で、どうして彼女の手を握ってあげられなかったのか。私に医者としての慢心に気づかせてくれた死でした。』

（「生きかた上手」より）

また先生は昭和四十五年三月に赤軍派が起こしたよど号ハイジャック事件に遭遇されています。

「ハイジャックから生還して、いのちはあたえられたものなんだと気づきましたし、ハイジャックに遭わなかったら、そこから先の人生を、自分のためよりもむしろ他人の役に立って過ごしたい、とも思わなかったかもしれません。

人生にはむだというものはないので、しかし、後にならないと、その意味がわからないということがたくさんあるのです。つらいことでもくるしいことでも「体験」したことは、まちがいがなくその人の強みになります。」と述べています。

「いのちの授業」、「終末期医療」の普及、「看護教育」の必要性、「新老人の会」の提唱等、日本の医学を創り続けた功績はいとまががありません。

日野原医師を通して学んだことは、人は誰でも無数の縁の中に生きていくということです。無数の縁に育まれ、人はその人生を開花させていく、大事なものは、与えられた縁をどう生かすかであります。

現代は人間そのものが本当の意味で問題とされず、「人間とは何か」「生きるとは何か」という深い問いを葬ってしまった時代です。人間そのものを見つめることを忘れた「人間絶対」という時代が依然として科学絶対、経済絶対を生み出しています。さらに厄介なのはそれらの恩恵があると、眼が常に外へ外へと向いてしまい、肝心の自分自身を問うことを全く忘れてしまうのです。

仏教とは、人間の存在そのものを見つめ、問いを投げかける教えです。仏教の教えというものは、いうまでもなく、「出世間（しゅっせけん）」の教えです。ですから、世間的な価値観と必ずしも重ならないところがあります。出世間という言葉は、世間的価値では本当に満足できない上、むしろそのことで苦しめられるということをあらわしています。世間の価値にしがみつくと私たちには、なかなか仏教を受け入れることができないのです。

ここに一つの例を紹介します。

関西学院大学教授の藤井美和さんという方が死生学の授業で、「死の疑似体験」というワークショップを行いました。まず、学生に、自分の人生にとって大切なもの、具体的に、「形ある大切なもの」「大切な活動」「大

切な人」「形のない大切なもの」の四つの領域で三つずつ大切なものを選んで紙に書きだしてもらいます。次に、実際にがんで亡くなった学生さんの日記を藤井さんが読みあげ、参加する学生の一人ひとりがある主人公になって、入院、検査、告知、そして最後を覚ったとき、順次何を手放していくかを決め、紙を破っていきます。

ここで注目すべきことは、形ある大切なものは比較的早い段階でなくなっていくということと、お金があるとか、生活が豊かであるとか、社会から認められているとか、社会の流れに乗り遅れないように必死にやってきましたはずのことを放棄していくということです。いかにモノにこだわっていたか、いかにいのちのつながり、関係性をまつたく粗末にしてきたか、そして、なんでもない今の生活が本当に尊いことであり、それをとおろそかにしていた自分の愚かさ気づかされていくといえます。そして、最後の段階まで残るものが「形のない大切なもの」「大切な人」だということです。その「愛」は、「単に好きな人とかものに対する愛情よりもっと深い、自分が生まれ生きること赦されたことに對する愛であり、それが私を最後まで生かしてくれた。」という感覚をもつ学生が多いということです。

自分を丸ごと包み、どんな苦悩があったとしても、その苦悩を引き受けていくような、生きる意欲を与えてくれるような愛がほしいというのが人間の本心なのでしょう。

まさに、仏教に通ずる「人間にとって本当に大切なもの」を喚起していると思います。

【寺灯雑記】

○当寺を会場に地域の「子育てサロン」

7/10
市川市社会福祉協議会の地域活動の一つである「子育てサロン」が当寺を会場に始まりました。

これは子育てを共通の話題として、いろいろな親子と出会い、悩みを気軽に話したりアドバイスを受けたりと、楽しくおしゃべりをする内容を集い集いです。

昨今は地域住民のつながりが薄くなり、ことに子育てに不安や悩みを抱えている親たちが多い中、それらを共有する場が必要とされています。

当寺ではその場を提供し子育てサロン「パンドラ子」としてスタートしました。

9月から毎月第2曜日(原則) 11時から2時まで開かれます。利用される親子が増えていくことが予想されます。

○門信徒会役員会を開く

7/17

今年度第3回定例門信徒会役員会が常例法座のあと開かれ、16名が出席しました。

主な議題は、この夏行われる恒例の第26回門信徒ファミリーパーティー、第22回夏休み子ども合宿の参加者並びに進捗状況等の報告と当日の役割を話し合いました。

また今年度から皆様にご依頼申しあげている本堂・間法会館など建築物に係る「修繕費積立金」の進納について、順調にご協力をいただいている旨の報告がありました。

ご理解とご懇念に有り難く御礼申し上げます。

○門信徒ファミリーパーティーに集う

7/30

お互いの家族が世代を超えて楽しく集う門信徒ファミリーパーティーが今年も賑やかに開催されました。

第1部は昨年まで目玉として続いた門信徒劇団「おとめ座」に変わって、船橋市の伝統的な郷土芸能「ばか面おどり」が愛好会17名の出演により賑やかなお囃子に合わせて披露されました。また南京玉すだれも好評でした。さらに紙切り芸人の落語協会所属「林家楽一」さんをお呼びして、初めてプロの見事な芸を見せてもらい、即席注文の切り絵に子どもたちも大喜びでした。

第2部は駐車場に移った模擬店(かき氷、生ビール、各種お酒類、ラムネ、ジュース、焼そば、焼き鳥、おでん、トウモロコシ、枝豆、きゅうり、フランクフルト等々)を楽しみながら、子どもたちのゲーム、盆踊り、抽選会などで大いに懇親を深めました。毎年のこの集いには楽しみにして一家をあげて参加される方々も多く、とてもうれいことです。今年も程良い天気恵まれておおよそ150名が参加し、実行委員会の皆様も大変ご苦労さまでした。

尚、当日お願いした「九州北部豪雨災害義援金募金」は26,831円になり、「本願寺たすけあい募金宛て」に送金しました。

○千葉組連続研修会受講者募集!

10月から第8期門徒推進員養成連続研修会(れんけん)が実施されます。これは浄土真宗の教え、作法、おつとめなど

門信徒として必要な知識を2年間にわたって学んでいく講座です。詳細はお寺へ。

・受講料 5,000円

8月末までにお申し込みください。

【旅行参加者募集】

◇親鸞聖人ゆかりの寺院参拝旅行

日程：十月二十四日(火)～二十五日(水)

北茨城磯原温泉(1泊2日)

市川駅～上宮寺(山伏弁円ゆかり)～白水

阿弥陀堂～無量寿寺(順信房開基)～大洗

パーク市川駅(全行程観光バス)

・旅行代金 20,000円

・募集定員 40名

・申し込み 9月末日まで

◇海外スリランカ仏跡の旅(5泊7日)

日程：平成30年3月4日(日)～

3月10日(土)

・旅行代金概算 297,000円

(1人1室利用)

245,000円

(2人1室利用)

・五つ星ホテル利用

・成田空港～コロンボ空港直行便

・募集人数 15名

・申し込み 8月末日まで

世界遺産の宝庫！インド洋に浮かぶ奇跡の島国スリランカは初期仏教が伝播し、仏教文化が栄えました。最古の都アヌラダプラの仏教遺跡、世界遺産のシギリヤロック、数多くの仏像と仏教逸話を描いた壁画のある最大の石窟寺院等をゆっくり巡ります。訪れるべき国NO1へ一緒にしましょう。

【法要、行事、法座案内】

☆盂蘭盆会法要修行

(全戦没者追悼法要併修)

・日時：八月十一日(祝日) 午前十時

おつとめ 重誓偈、仏説阿弥陀經

讚仏歌 みほとけに抱かれて

法話 渡辺浄道師(朝霞市浄心寺住職)

亡き人びとを偲びつつ、仏教の教えに導かれる尊いご縁となる法要に是非お参りください。

○いのちの居場所を考える会

八月十七日(木) 十時半

○夏休み子ども合宿(二泊二日)

八月十九日(土)～二十日(日)

○和讃に学ぶ

八月二十六日(土) 三時

○婦人会讃寿の会

九月二日(土) 十一時

いただいたいのちの尊さを知り、そのよこびを阿弥陀さまに感謝する集いです。昼食を共にしながら懇親を深めます。

昼食代 1,000円

参加される方はお寺か婦人会会長本間さんまでお知らせください。

○壮年会法座

九月二日(土) 三時

九月の法語カレンダーの言葉と座談会

【八月の掲示板のことば】

人間の執着が 変化の自覚を妨げる